

南米チリの砂漠化の防止策として、三富新田の土地利用を本手にJICA(日本国際協力事業団)が技術指導するなど循環型農業として評価の高い三富新田。現在、世界農業遺産認定に向けて

世界的に高評価

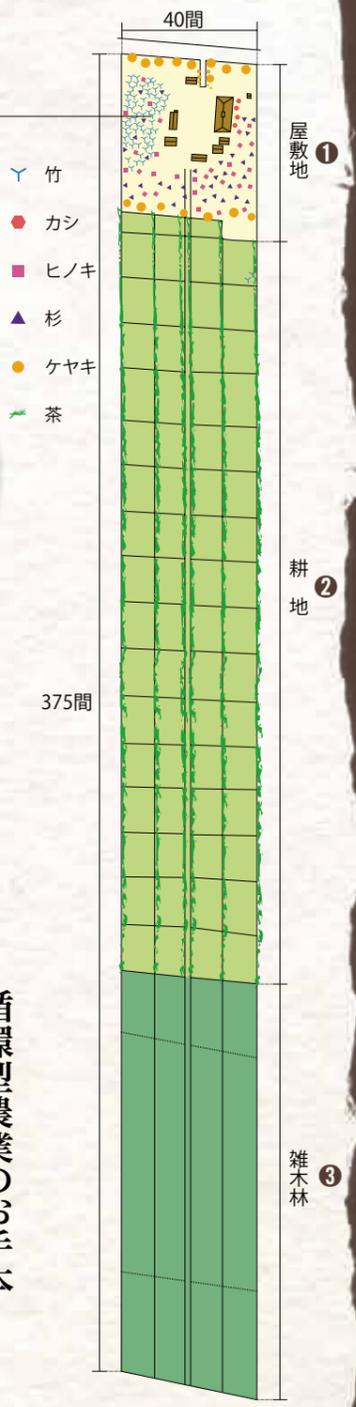
① 雑木林にはナラ・エゴ・赤松などが育てられ、防風林、燃料となる薪、肥料となる落葉の供給源として、農民の生活になくてはならないものでした。いくつかの区画に分けられた雑木林は、約15〜20年をサイクルとして雑木の伐採と若木の育成が行われました。今も残る三富新田の地割。新田開発を計画した川越藩、この地で生活を営んできた農民たちの努力と知恵のあとをうかがうことができます。



↑三富新田を上空からみた景観。規律正しく整理され、きれいな短冊型になっていることには理由がある。

三富新田の地割

短冊型の敷地は、道路に面した表側が①屋敷地、その次に②耕地、③雑木林という構成になっていました。家のまわりを囲む屋敷林は竹やケヤキ、ヒノキなどが植えられ、防風の役目を果たしました。耕地の境には茶の木が植えられ、防風の役目だけでなく、商品ともなりました。雑木林にはナラやクヌギ、エゴ、アカマツなどが植えられ、防風林として、また燃料となるたきぎや、肥料となる落ち葉の供給源となっていました。



今も美しい景観を残す三富新田

先人の努力と知恵

無駄のない循環型農業

循環型農業のお手本

何もない大地に一からデザインされた三富新田は、畑作業に適した都市計画が行われました。ケヤキ並木に沿って並ぶ短冊型の敷地は、循環型農業のお手本ともいえる工夫がありました。しかし三富新田の開発は決して容易ではなく、開拓農民たちの血がにじむような努力と知恵によって成し遂げられたのでした。

先人の努力と知恵

三富の開拓は幅六間の道を縦横に開くことから始められ、この道の両側を間口40間(約72m)、奥行375間(約675m)の短冊状に区画し、一戸あたり五町歩(約5ヘクタール)ずつ配分しました。右の一軒分の屋敷割からわかるように、道路に面した表側を屋敷地として、その次に耕地を、いちばん後方を雑木林としました。

①家のまわりを囲む屋敷林には、竹、けやき、杉、ひのき、榎などが植えら

世界農業遺産認定をめざす

世界農業遺産を「存じでしようか。これは、土地の環境を活かした伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化、農村景観などを「地域システム」として一体的に維持保全し、次世代へ継承していくことを目的とし、国際連合食糧農業機関(FAO)が立ち上げたもので「GIAHS(ジアス)」と呼ばれています。現在世界11か国で25地域が登録され、国内では新潟県佐渡・石川県能登をはじめ4地域が登録されています。

落葉堆肥による循環型農業、屋敷林、耕地、雑木林の循環型土地利用、里山景観、里山に生きる生物多様性、地域の祭礼やさまざまな年中行事など、上富まつりのように地域に根付いた伝統文化。まさに世界農業遺産の理念と一致しています。

先人に感謝

先人が開拓し今も伝承されている三富新田。私たちが暮らす三芳町には世界に誇れるものがあるのです。ふるさとの誇り。それは努力と苦勞をした先人のおかげなのではないでしょうか。

感謝。 — 特集 感謝。 終 —

▶ Interview

上富まつり — 子どもたちにふるさとの誇りを —

上富まつりは、山車を曳くのも山車の中でお囃子を演じるのも子どもたちが中心です。それは、子どもたちがふるさとに誇りをもってもらいたいという思いからです。まつりに携わるすべての人に感謝し、開拓者である私たちの先祖にも感謝しながら、このまつりをずっと続けていきたいです。



上富まつり実行委員会 会長：武田 功さん

※ 11/3に行われたまつりの様子はP27のフォトニュースでご覧いただけます。